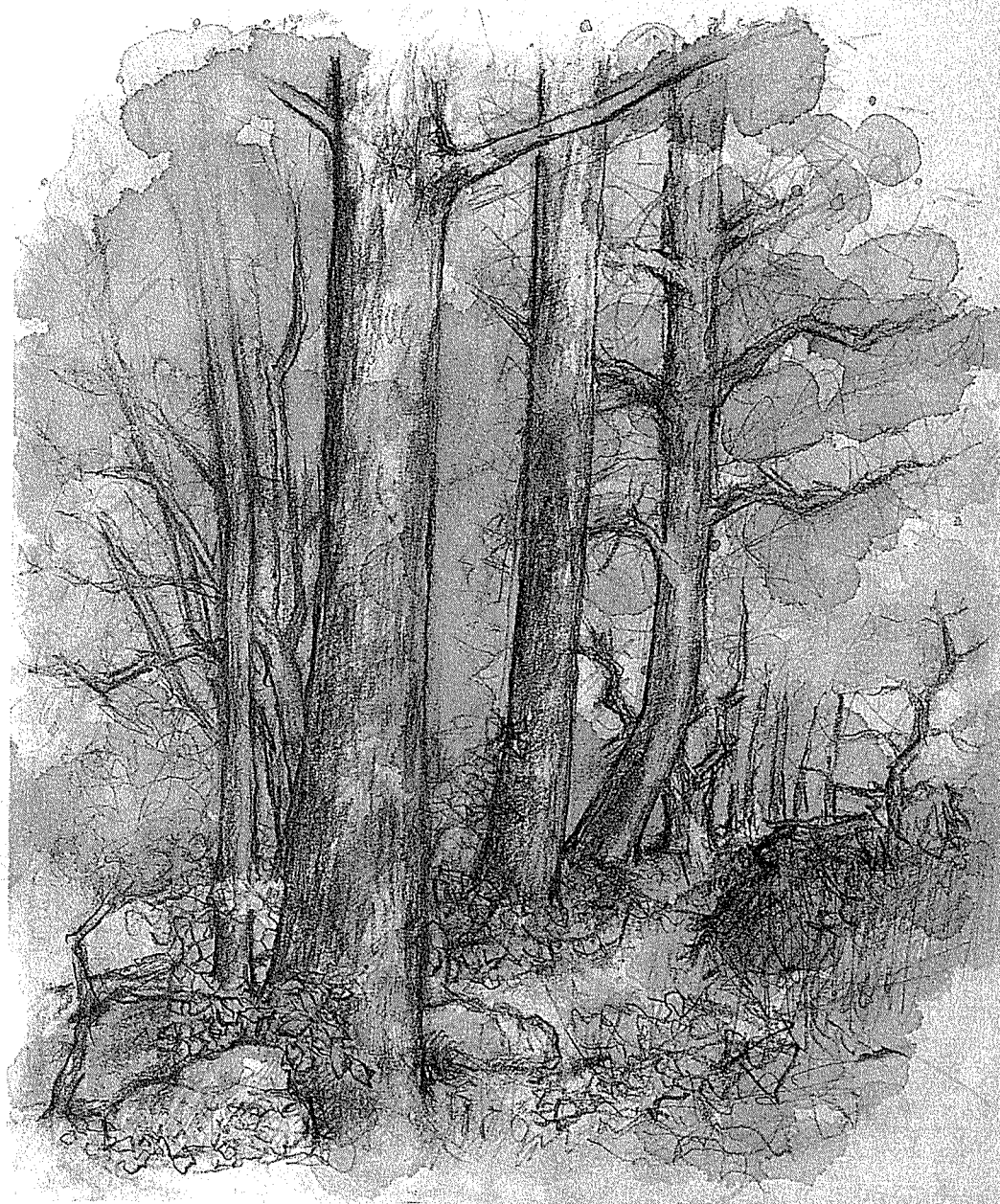


# 校長樹林

第 38 号 (平成19年度)



2008. 2

島根県小学校長会

## 最初で最後の手紙

松江市立大谷小学校長 伊藤 紀子

拝啓

「雪は天からの手紙」という素敵な言葉を聞いたことがあります。

私にそのような素敵な手紙は書けそうありませんが、一番共感していただける仲間との「樹林」ですので、ちょっとびり自由な気持ちで「最初で最後のお手紙」を書いてみようかなと思ひペンを執りました。

人というのは自分の人生の夢を、いろいろな場面であつと心に浮かんだことから考えていくと思ひますが、思ひ出せば私にとって教師になるという夢は、幼い時に心に浮かんで消え、そしてこれしかないといつた夢に定着していったように思ひます。

小学校の四年生ぐらいでしたでしょうか、四月、入学してくる新入生のために「おめでとう」のメッセージの言葉や、先生や新入生の絵を黒板に描きながら、自分が教師になっている姿をそこに見たような気がします。そして生意気にも尊敬する先生に「社会を変えるのは人なり。人を育てるのは教育の力なり。」と、決意の手紙を出したのが中学生の時でした。

しかし管理職になるという設計図は私の夢の教師像には描かれていなかったものでした。管理職のための勉強は開眼そのもので、法規は縛りと捉えていた意識が、「教師は守られている」というまるで反対の新しい世界観に変わり始めました。それまで音楽一色で取り組んできた自分の教育活動や教師生活を違う物差しで図り、また違う新しい夢をもった気がします。管理職としての初の赴任は年度途中の吹雪の中。雪道、車を走らせ、それゆえ

一層新鮮な気持ちで新しい子ども達、先生達と出会った日を思い出します。

さて話を過去から未来へ移します。ある方が「これから人類、日本が滅ぶとすればそれは『核』『食』そして『メディア』だ。」とおっしゃったと聞きました。今の人類の大きな課題を端的に表した名言だと思ひます。この数十年、脳科学が急速に発展し、人間の脳の状況がづぶさにわかるようになりました。発達段階のやわらかい脳をもつ子ども達が八十才まで生抜く剛健な体を育てるべき子ども期に、世界一といわれる日本の子どももメディア長時間接触がもたらしているのは、体力低下、視力低下、脳の活動低下、言葉の喪失そして人との心の交流の欠如です。そのため耐性、生きる意欲、学ぶ意欲、自分への自信、親子や人との人間関係の喪失が生じています。こうしたメディアの急速な発達には私の子ども時代にはなかつたわけですから「人類の歴史上初めてのメディア社会の到来とその功罪」について実感しながら語れるのは、「私たちの年代だからこそ」と思ひます。私はこれから未来を担う子ども達に、小さな贈り物しかできなくなります。ですからこうして皆様方に最後の手紙を書き、島根の子どもたちへのメッセージを托したいのです。そして行く手にある「核」「食」「メディア」の問題について皆様と少しでも語り合い、手を繋ぎながら歳を重ねていけたら思ひます。

これまで赴任した全ての学校で、数々のあたたかいご指導を頂き、導き支えてくださったたくさんの方々の先輩方、同僚の方々、地域の皆様、子ども達、お一人お一人に心をこめてお礼申し上げます。また明日からの新しい私を、再び支えてくださいますようお願いいたします。

もうすぐ春、というのにほら雪が降ってきました。最初で最後のお手紙に、この雪を同封いたします……。

草々